



〜まちづくり人材バンクに下記の専門家をご登録いただきました〜

熊澤 貴之 様

(茨城大学 理工学研究科(工学野)都市システム工学領域 教授)

熊澤氏は現在、茨城大学理工学研究科(工学野)都市システム工学領域の教授であり、工学博士・一級建築士であるとともに、建築都市デザイン・建築計画の知識を有され、その知識を活かし、倉敷市伝統的建造物群等保存審議会 委員等も歴任されており、茨城県では、茨城県景観審議会 副会長等を務めておられます。



表彰

令和3年度まちづくり月間 まちづくり功労者国土交通大臣表彰 ～ 茨城県から1団体が受賞 ～

国土交通省では、まちづくりについて広く住民の理解と協力を得ることを目的に、昭和58年度から毎年6月を「まちづくり月間」と定め、都道府県、市町村、関係団体等の協力を得て、まちづくりに関する啓発活動を幅広く実施しています。その取組のなかで、魅力あるまちづくりの推進につとめ、特に著しい功績のあった個人・団体を、まちづくり功労者として国土交通大臣が表彰しています。

令和3年度においては、全国から23の個人・団体が受賞し、茨城県からは「特定非営利活動法人 ちゃんみよTV」(所在地 牛久市)が受賞しました。誠におめでとうございます。

第39回目となる今回も、まちづくりに関する広報活動や関連行事などが行われましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、全国的行事である「まちづくりと景観を考える全国大会」については開催中止となり、同大会において行う予定となっていた、「国土交通大臣賞」の受賞者に対する表彰状授与も中止となりました。

■功績概要

地域に密着したインターネット放送による情報発信とイベント活動により、地域のまちづくりに対する意識高揚とコミュニティの活性化に貢献しました。



情報発信事業を中心としたまちづくり「地域はひとつの大きな家族」

特定非営利活動法人ちゃんみよTV

■はじめに

私たちは、牛久市は東京圏のベッドタウンという特性から、市民の地域への興味が比較的薄く、地元愛が育っていないのではないかと問題意識を持ちました。特に、東日本大震災での帰宅困難の経験等を通じ、地域の絆の大切さを改めて実感したことでその意識が強まりました。

そこで、「地域はひとつの大きな家族」をコンセプトに、市民の目を地域に向け、その魅力を再発見してもらうことで、地元愛の醸造、市民の絆づくり、誇りの持てる住みよいまちづくりを目指して活動しています。

■デジタル技術を活用した情報発信

活動の中心はインターネットTVによる番組のライブ配信です。市内外のイベントや、元気な市民を紹介する地域密着型の情報発信を行っています。

パソコンやスマートフォン1台からでも配信が始められ、初期投資が低いことや、どこでも気軽に視聴できること、全国・全世界と直接つながれることなどから、プラットフォームとして選定しました。



スタジオからの番組配信

現在ではご当地WEB番組なども増えてきましたが、私たちが放送を始めた2012年頃は、それほど注目されている媒体ではなく、先駆けの取り組みだったと思います。手探りで始めた平日毎日1時間の生放送を、10年近くも続けて来られるとは、自分たちでも想像していませんでした。

2012年5月から、現在では延べ2500回近い放送回数で、総視聴数は約101万回に達しております。視聴者の皆様へ感謝しながら、毎日楽しく放送しています。

※ご視聴いただければ幸いです！



■魅力を高めるチャレンジ

情報発信だけではなく、自ら地域の魅力を高めることにもチャレンジしています。

市内のお祭りやイベントへのブース出展で盛り上げたり、市民を巻き込みながら牛久沼や道路の環境美化のための『プロギング』（ジョギング+ゴミ拾い）、県都市計画協会の「まちづくりアドバイザー」制度を活用した市民向け講座『まちづくり塾』等に取り組んでいます。



牛久沼のゴミ拾い「うしくりーん作戦」

■運営状況

当NPO法人スタッフの年齢構成は10代から70代まで幅広く、女性や若者も中心になって活躍しています。これまでに、番組MCの卒業生が女子アナの夢を実現したという嬉しい実例もできました。

しかし、運営面では、活動を応援してくれるスポンサー様（主に地元企業や個人）に支えられながら、ボランティアスタッフの頑張りで何とか続けている状況であり、自立運営のための経営基盤強化は常に課題となっています。

※新規スポンサー様を随時募集中です！

■今後に向けて

大変光栄なことに、私たちの活動が評価され、「チャレンジいばらきまちづくり大賞」や「まちづくり功労者国土交通大臣表彰」を受賞させていただきました。これを励みに、これからも地域活性化のために貢献してまいります。

コロナ禍により長年紡いできたイベントや伝統行事が途絶えないか心配な状況ですので、どこにいても故郷の思い出や絆などの結びつきを感じてもらえるよう、温かみのある情報発信を続けていきたいと思っています。